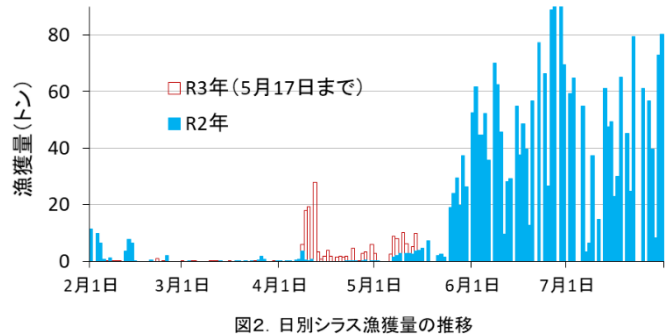
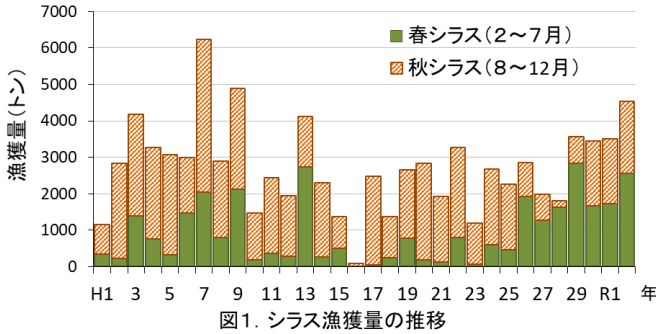


春シラス漁の漁況経過と見通し

(1) 漁況経過

春シラス（2～7月）の漁獲量は、平成26年から好漁が続いています（図1）。

今年は4月上旬から漁獲が増え始め、4月は県内合計106トン、5月は59トン（両月とも速報値）となっています（図2）。シラスの種類は2～5月にかけてカタクチイワシが主体となり、マイワシが約4～10%（各月平均）混じりました。



(2) 今後の見通し

本県の春シラス漁獲量は、沿岸域の水温が高いほど増加する傾向があります（図3, 4）。これは黒潮からの暖水波及により水温が上昇するとともに、海流に乗って卵やシラスが西部の海域から運ばれてくるためだと考えています。

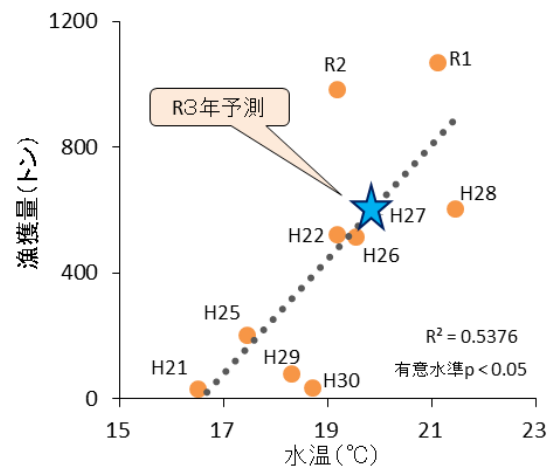
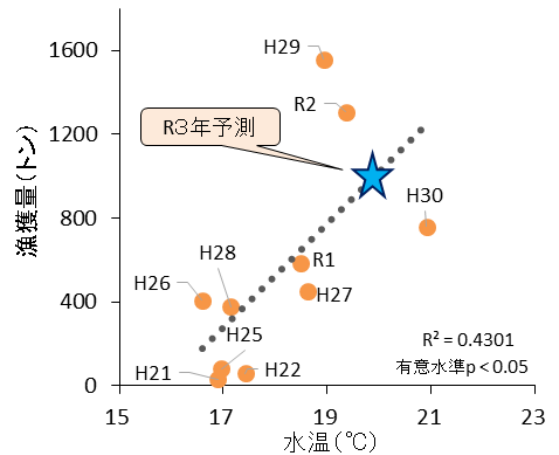
今年5月上旬の水温は平年より「やや高め～高め」で推移しています。6～7月上旬の水温を（国研）水産研究・開発機構が開発した水温予測システム（FRA-ROMS）を使って予測すると6月、7月の10m深水温はどちらも約20℃となり、平年より「やや高め～高め」となります。この水温値を図3, 4に当てはめて漁獲量を予測すると6月は約1,000トン、7月は約600トンとなります。ただし、6月の暖水波及は6月中旬頃と予測しているため、6月の漁獲量は約500～1,000トンを見込んでいます。

以上のことから春シラス漁の漁獲量は、これまでの漁獲量（2～5月：170トン）、6月の予測値（約500～1,000トン）、7月の予測値（約600トン）を合計した数量となり、**1,300～1,800トン**が見込まれます。

なお、シラスの種類についてはマイワシの産卵盛期が2～4月であるため、今後マイワシは減少し、カタクチイワシが主体になると考えられます。

また、水産試験場では最新の水温情報やシラスの水揚げ状況をホームページで随時更新して提供して参りますので、参考にしていただければ幸いです。

（回遊性資源部 高橋 佑太郎）



※水温は海洋観測（会瀬～犬吠埼定線10m深水温平均値）、漁獲量は月別県内合計シラス漁獲量（H21～R2、震災後H23、24除く）